岩手・志羅山（しらやま）遺跡

1　所在地　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山
2　調査期間　第六六次調査　一九九七年（平9）四月～八月
3　発掘機関　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
4　調査担当者　羽柴直人・高橋実央・朝倉雄大
5　遺跡の種類　都市跡
6　遺跡の年代　主として一二世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

志羅山遺跡は平泉町中心市街地の南側に位置し、五〇〇m四方の広がりをもつ遺跡である。平泉は一一世紀末から一二世紀後半にかけての約九〇年間、奥州藤原氏が本拠地とした地域で、当遺跡も一二世紀の都市平泉の一部分を占めている。これまで七〇次を越える調査が行なわれており、遺跡全域から一二世紀の遺構・遺物が検出されている。

（一　関）

第六六次調査は、一関遊水池事業に関連する国道四号線の改修工事に伴うものである。調査の結果、二本の埋没沢が検出された。これらは調査区の西から東に向かって走り、調査区の東側で合流して一本の沢になっている。これらの沢は一二世紀段階で既に埋没が進んでいた状態で、一二世紀中頃に人為的に埋め立てられ、整地されている。

今回報告する笹塔婆は、この沢を整地した面に造成された二基の池から出土したもので、一号池から四七点（墨書の確認できないもの一〇点を含む）、二号池から一点、計四八点にのぼる。

一号池は、埋没沢を埋め立てて整地する過程に造成されている。池の底面と壁面には、埋め立てに用いられた土と同じ土が貼られている。南北幅一三m、東西幅六mが検出され、さらに調査区域外の西側に広がっている。池の東約三・五mには道路遺構がある。この道路遺構と池は同時に機能していたとみられ、池から道路の側溝に溝が通じており、池の水がオーバーフローすると、道路側溝に流れ込む仕組みになっている。

笹塔婆は池が機能していた段階に堆積した粘土質の層から出土した。この層からは他に鉄地銅象嵌の轡、馬骨、陽物形、鳴鏑、鉄鏃、墨書のあるかわらけなどの特異な遺物が出土している。笹塔婆を含めて、これらの遺物も祭祀行為によって池に置かれた可能性が高い。笹塔婆は池の南側に偏って分布していたが、立てられている状態のものはなく、いずれも横位で方向もばらばらの状態で出土している。

一号池は前述のように一二世紀中頃に造成され、一二世期末までには廃絶したと考えられる。

二号池は、埋没沢を埋め立てた層を掘り抜いて造成されている。南北幅五・一m、東西幅二・九mが検出され、さらに調査区域外の西側に広がる。笹塔婆の他に、漆器皿、曲物、ざる、東北地方産の瓷器系陶器片が出土している。陶器片から一三世紀後半から一四世紀前半頃機能していた池と考えられる。笹塔婆は池の堆積土中から出土した。

8　木簡の釈文・内容

一号池

(1)　「〈南无大吉祥天女」　150×14×2　061

(2)　「〈南无無量寿如来」　172×13×2　061

(3)　×□□門天　(124)×17×2　061

(4)　「〈　×女」　253×14×1　061

(5)　「〈南无大吉祥□女」　158×16×1　061

(6)　「〈南无大吉□□　(160)×12×1.5　061

(7)　「〈南无毘沙門天」　146×16×1.5　061

(8)　「〈南无大吉□天女　(177)×15×3.5　061

(9)　南无□□」　(140)×13×2　061

(10)　「〈南无無量寿如来」　142×17×1　061

(11)　「〈南无□□　(178)×14×2　061

(12)　「〈南无□□」　138×15×1　061

(13)　「〈南无大吉□□　(124)×16×1.5　061

(14)　〈南无毘□門天　(147)×18×2.5　061

(15)　〈南无如□□　(100)×15×1　061

(16)　×王」　(119)×13×1.5　061

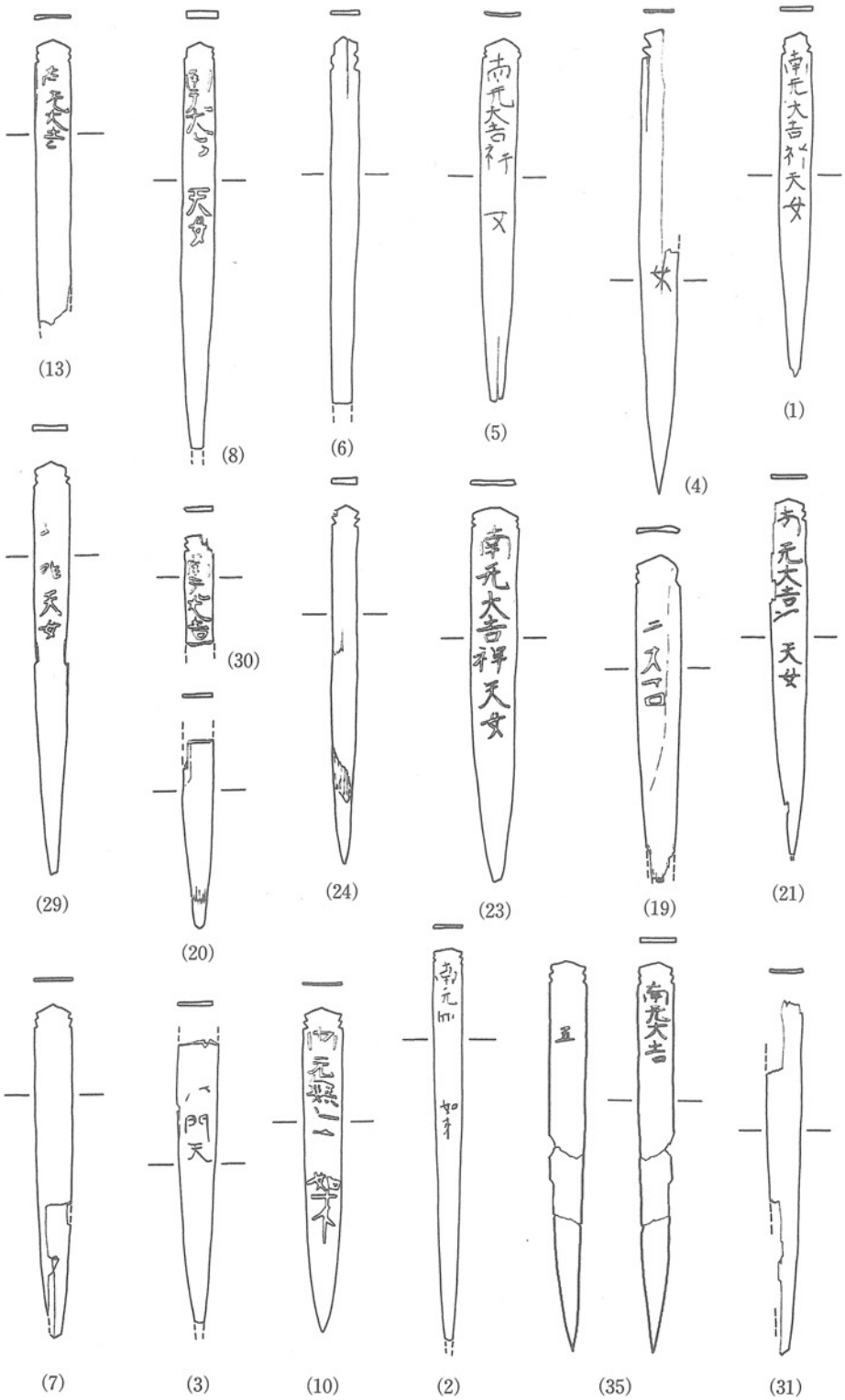
(17)　「〈南无如×　(72)×18×1.5　061

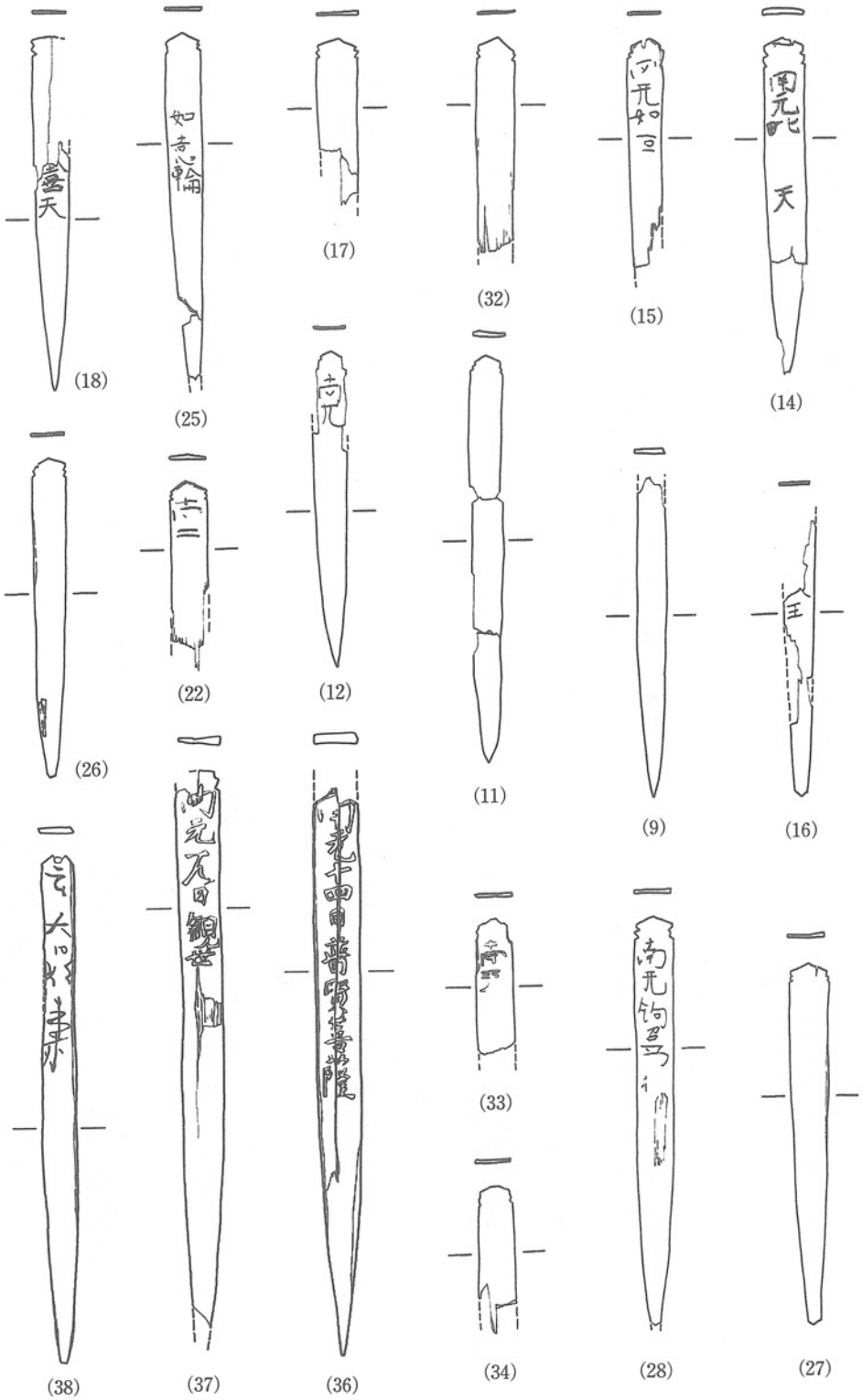
(18)　〈南□歓喜天」　(155)×15×1.5　061

(19)　〈南无大吉□□　(144)×19×2.5　061

(20)　×女　(82)×13×2　061

(21)　「〈南无大吉祥天女　(155)×16×1.5　061


(13)
(8)
(6)
(5)
(4)
(1)
(29)
(30)
(20)
(24)
(23)
(19)
(21)
(7)
(3)
(10)
(2)
(35)
(31)


(18)
(25)
(17)
(32)
(15)
(14)
(26)
(22)
(12)
(11)
(9)
(16)
(38)
(37)
(36)
(33)
(34)
(28)
(27)

(36)

(37)

(28)

(2)

(10)

(1)

(14)

(25)

(18)

(5)

(23)

(35)

(22) 「〈南无□」 (83)×16×2 061

(23) 「〈南无大吉祥天女」 164×20×2 061

(24) 「〈南无大吉□女」 156×11×2.5 061

(25) 「〈南无如意輪□×□」 (152)×15×1.5 061

(26) (140)×14×1.5 061

(27) 「〈南□」 159×17×2 061

(28) 「〈南无□」 (180)×16.5×2 061

(29) 「〈南无大吉祥天女」 181×15×3 061

(30) 「〈南无大吉× (49)×12×3 061

(31) 南无大吉祥天女 (155)×16×1.5 061

(32) 「〈南无毘□」 (94)×17×1 061

(33) 南无× (60)×16×2 061

(34) 〈南无× (65)×16×1 061

(35) ・「〈南无大吉□」 170×16×2 061
・「〈　五□　」

(36) 南无十四日普賢菩薩」 (248)×19×5 061

(37) 〈南无十八日観世音□」 (244)×18×4 061

二号池

(38) 「大日如来」 (224)×15×2.5 061

一号池の笹塔婆は、頭部を圭頭状にし、頭部の左右二カ所ずつに切り込みを入れている。脚部は徐々に細くなっている。墨書はほとんど残っていないが、その痕跡が浮き上がって観察される。「南无」に続けて仏名が記されており、大吉祥天女の名が最も多く見られる。墨書は片面だけに見られるが、(35)のみは両面に墨書の痕跡が確認された。表面には他の笹塔婆と同様に「南无大吉□」と記され、裏面は完全には判読できないが、「五□」と記されている。(36)(37)は他の笹塔婆より大きく、「南无」と仏名の間に日付が記されている。これらの日付は、それぞれ三十日秘仏信仰に基づくもの（十四日・普賢菩薩、十八日・観世音菩薩）であり、この笹塔婆の性格を知る上で重要な手がかりとなろう。

二号池の笹塔婆は、頭部を圭頭状にしているが、左右の切り込みはない。脚部は徐々に細くなっている。一号池から出土した笹塔婆より新しい時代のものと考えられ、形態、墨書の内容が異なる。今後さらに笹塔婆を比較検討しながら、その性格を明らかにしていきたいと考えている。

（高橋実央・羽柴直人）